

新聞の「総覧性」体感

教育センター
NIE講座 教師24人が研修



グループごとにオリジナル新聞を作る参加者ら。3日、県立総合教育センター

県立総合教育センター
(諸見里明所長)で3日、

新聞活用を学ぶ研修会が開かれ、中高の教諭24人が参加した。講師を務めたNIEアドバイザーの兼松力大里中教諭は、NIEの現状や切り抜きを使った新聞作りを紹介。参加者はワークシヨップを楽しみながら、多様なニュースが一目で分かる「総覧性」などの新聞の特長を体感した。

同センター主催の「中学校社会・高校地歴公民講座」の一環。兼松教諭はNIEの実践法が近年、記事の内容そのものを扱う「内容論」から、教育目標を達成する材料として多様な使い方を「方法論」に変化していることを説明した。

ワークシヨップでは、参加者一人一人が切り抜いた



記事を再構成して、3人グループでオリジナル新聞を作った。兼松教諭は「パズルのようにすれば、生徒は遊びながら記事を読める」と語り、「新聞は小学生から高校生まで使える。うまく使ってほしい」と呼び掛けた。

参加した首里高校の比嘉悦子教諭は「生徒の興味関心を引き、新聞を身近に感じさせる実践だ。ぜひ授業で使いたい」と語った。県NIE推進協議会の山内彰会長は「楽しく、誰にでもでき、すぐに実践に生かせるのがNIEだ」と呼び掛けた。終了後、諸見里所長は「新聞は学習教材の宝庫だ」と実践を評価した。